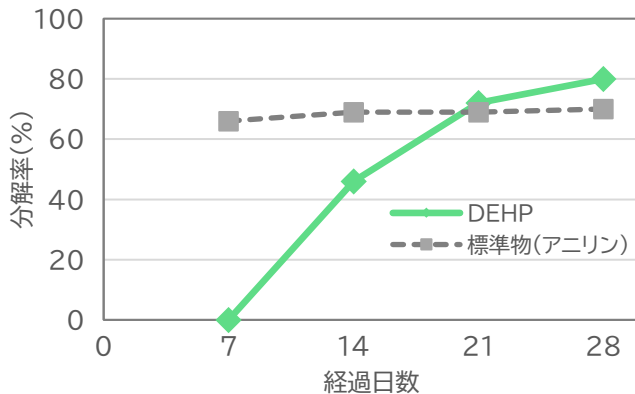


フタル酸エステルの分解性について

可塑剤の環境への影響をみるとき、分解性は重要な要素です。フタル酸エステルは化審法(化学物質の審査及び製造の規制に関する法律)で定められた微生物による生分解試験で、良分解性であることが認められています。(図1)

さらに、河川水など実際の自然環境中での分解性を調べる自然浄化作用の試験では、フタル酸エステルは川の水の中でも良く分解することが確かめられています。(図2)

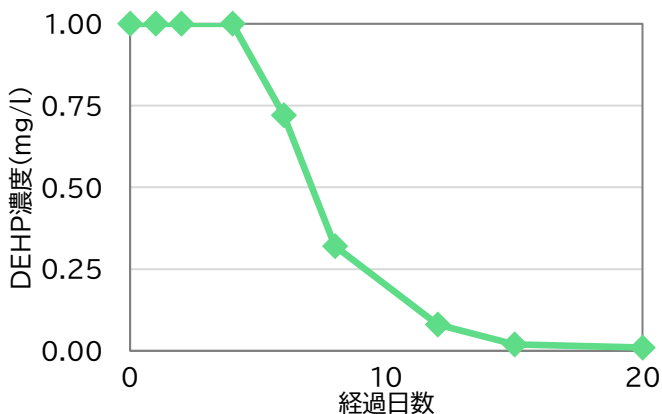
図1 微生物によるDEHPの分解
(化審法による試験方法で測定)



■ OECDでは28日間で60%以上の分解性を示す物質を良分解としています。

※被験物質 100mg/l に微生物を含む活性汚泥 30ml を加え測定
(温度は 25±1℃)
[財団法人化学物質評価研究機構 1993 年]

図2 河川水によるDEHPの分解性
(自然浄化作用)



■ DEHPが川の水など、自然環境中において良く分解することが分かります。

※DEHP3mg に河川水(多摩川二子橋で採取)3ℓ を加え 25℃で攪拌しながら測定
[財団法人化学物質評価研究機構 1993 年]